

朝の礼拝

聖書 エゼキエル書 3章 1-3節 (旧約聖書 1281頁)

主は私に言われた。「人の子よ、あなたが見つけたものを食べなさい。この巻物を食べ、行って、イスラエル之家に語りなさい。」私が口を開けると、主は私にその巻物を食べさせ、言われた。「人の子よ、私が与えるこの巻物を食べ、それで腹を満たしなさい。」私がそれを食べると、口の中で蜜のように甘かった。

巻物を食べる

ヒトは成長すると言葉を覚え、子孫を残すようになりますが、生まれてから死ぬまで変わらずに繰り返していることがあります。一つは睡眠、もう一つは食事です。まず眠ることは身体も心も休める、とても大切なことです。

眠るためには黙想と祈りが大切です。つまり一日をふり返り、少し自分から離れる、すべてを明日へ委ねることです。人事を尽くして天命を待つ。繰り返し、失敗しても諦めず、こつこつと続けながら、時が必ず来ると信じる。そのために眠り、休むのです。

もう一つ食べるためには感謝と分かち合いが大切です。私たちは好き嫌いでなく、栄養のバランスで生きています。これは当たり前ではありません。また孤食、子ども食堂、食品ロス、飢餓などの課題は、私たちが分かち合いを忘れていないからではないでしょうか。

巻物とは神の愛です。「巻物を食べる」とは神の愛を知ることではなく、神の愛を生きることです。休むこともできず、分かち合うこともできないならば、私たちにとって本当に必要な糧とは神の愛を生きることではないでしょうか。

(しばらく黙想しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたは悪魔の誘惑を受けられた時「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」と言われました。また「わたしは命のパンである」とも言われました。そして最後の晩餐で弟子たちの足を洗い、パンとぶどう酒を分け、神の愛と赦しを示されました。どうか私たちもあなたの言葉を食べ、心を静め、分かち合う喜びと感謝のうちに生かしてください。今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン